



からしだね

2021年2月号
(567号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



本号の記事の主題など

巻頭言：「親愛なる兄弟姉妹の皆さん、
クリスマスおめでとうございます」
2020年12月25日 教皇フランシスコ
大阪司教の新型コロナ感染症にともなう
措置（第10次）を受けて
2月のガラスケースのみことば
澆刺と新成人6名が誕生

みんなの談話室………
古代高速道路の光と陰
コロナ禍の下でのクリスマスミサ
今月の表紙絵について
2月の年間行事予定の変更

巻頭言

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、クリスマスおめでとうございます

2020年12月25日 教皇フランシスコ パチカンにて

この祝日に教会が預言者イザヤのことばをもって伝えるメッセージを、皆さんにお届けしたいと思います。「ひとりのみどり子がわたしたちのために生まれました。ひとりの男の子がわたしたちに与えられた」

(9・5)。

ひとりのみどり子がお生まれになりました。誕生はつねに希望の源です。それは開花するいのちであり、未来の約束です。しかも、幼子イエスは「わたしたちのために」お生まれになりました。境界も特権も排除もない、「わたしたち」という一つの民のためにです。ベツレヘムでおとめマリヤからお生まれになったみどり子、すべての人のために誕生されたその幼子こそ、神が人類家族全体にお与えになった「御子」です。

幼子イエスのおかげで、わたしたちは皆、「父よ」「おとうさん」と神に呼びかけ、神に語りかけることができます。イエスは神のひとり子であり、イエスよりほかに、御父を知る人はいません。イエスがこの世に来られたのは、まさに御父のみ顔をわたしたちに示すためです。わたしたちが互いを兄弟姉妹と呼び合い、真に兄弟姉妹となれるのは、このみどり子のおかげです。わたしたちはあらゆる大陸、言語社会、文化の出身であり、独自のアイデンティティーをもち、それぞれ異なっていますが、それでも皆、兄弟姉妹です。

生態系の危機と深刻な経済的、社会的な格差が、新型コロナウイルスのパンデミックによりさらに悪化しているこの時代には、兄弟愛がこれまで以上に必要です。神はご自分のひとり子を遣わすことで、わたしたちに兄弟愛をもたらしておられます。兄弟愛は、美辞麗句、抽象的な観念、あいまいな気持ちなどによるものではありません。そうではなく、真の愛に根差しています。その愛のおかげでわたしは、自分とは異なる人と出会い、相手の苦しみに共感し、たとえその人が自分の家族や民族、宗教に属していなくても、近づいて思いやることができます。どんなに自分と違っていても、兄弟姉妹です。このことは民族間、

国家間の関係にも当てはまります。皆、兄弟姉妹なのです。

降誕祭には、キリストの光が記念されます。キリストは、一部の人だけではなく、すべての人のためにこの世に来られます。パンデミックのために闇と不安にまみれたこのときにも、ワクチンの開発のような、希望の光が現れています。その光が世界中を照らし、希望をもたらすためには、すべての人にその光が届くようにしなければなりません。ナショナリズムのために閉鎖的になり、本来そうあるべき真の人間家族として、生きられないようではいけません。また、極端な個人主義というウイルスに侵され、他の兄弟姉妹の苦しみに無関心になるようでもいけません。愛のおきてや人々の健康のおきてよりも、市場のおきてや発明特許のおきてを優先し、自分のことばかり考えるようではいけません。わたしは、政府首脳、さまざまな企業、国際組織、そしてすべての人に対し、競争ではなく協力を促し、すべての人のための解決策を追求するよう求めます。すべての人に、とくに世界中のもっとも弱く貧しい人に、ワクチンを行き渡らせてください。もっとも弱く貧しい人が最優先です。

弱い立場に置かれた人、病者、さらにはこのパンデミックの経済的な影響のために失業したり、ひどい苦境に陥ったりしている人、ロックダウンの間に家庭内暴力を受けている女性の力となり、広い心で連帯を示すことができるよう、ベツレヘムの幼子がわたしたちを助けてくださいますように。

境界線もなく広がるこの問題のために、障壁を築くことなどできません。わたしたちは皆、同じ舟に乗っています。だれもが兄弟姉妹です。どの人にも、神のみ顔が映し出されています。わたしは苦しんでいる人の中に、助けを求めておられる主を見いだします。病者、貧しい人、仕事を失った人、社会の片隅に追いやられている人、移住者や難民の中に、兄弟姉妹の皆さんの中に、主を見いだします。

みことばが幼子となられたこの日、紛争のために今も大きな犠牲を強いられている、世界中の多くの子どもたち、とりわけシリア、イラク、イエメンの子どもたちに目を向けましょう。彼らの顔が、多くの善意の人の良心を動かし、その人々が紛争の原因に対処し、平和な未来を築くために勇気をもって尽力しますように。

今この時が、中東と東欧のあらゆる地域における緊迫した状態を鎮めるのにふさわしい時となりますように。

紛争とその影響により10年もの間、破壊されてきた上に、このパンデミックによってさらに状況が悪化しているシリアの愛する人々の傷を、幼子イエスがいやしてくださいますように。また、イラクの人々と和平プロセスに携わるすべての人、そして近年の紛争により深刻な被害を受けているヤジディーの信者を慰めてくださいますように。リビアに平和をもたらし、国内のあらゆる対立を終結させる交渉に、新たな局面をもたらししてくださいますように。

ベツレヘムの幼子が、ご降誕の地に兄弟愛のたまものを与えてくださいますように。イスラエルとパレスチナの人々が、公平で永続的な平和に向けて、信頼関係を取り戻し、直接対話によって暴力とこれまでの憎しみに終止符を打つことにより、美しさと兄弟愛を世界であかす人となれますように。

今は困難に直面していても、国際機関に支えられ、希望を失わずにいられるよう、クリスマスの夜空に明るく輝く星がレバノンの人々を導き、励ましてくれますように。レバノンの首脳が、一部の人の利益にとらわれずに、熱意と誠実さと透明性をもって努力し、レバノンが、改革の道をたどり、自由と平和的な共存に向けたその召命のもとに進めるよう、平和の君が支えてくださいますように。

ナゴルノ・カラバフにおける停戦を維持するための、また、ウクライナ東部で平和と和解の唯一の道である対話を促すための国際機関と関係諸国の取組みを、至聖なるかたのひとり子が支えてくださいますように。

過激派の活動や紛争による深刻な人道危機だけでなく、パンデミックや他の自然災害にも見舞われているブルキナファソ、マリ、ニジェールの人々の苦しみを、御子が和らげてくださいますように。また、大勢の人が紛争のために避難を余儀なくされているエチオピアにおける暴力行為を終わらせてくださいますように。国際テロの暴力行為の犠牲となったモザンビーク北部のカボ・デルガード州の住人を慰めてくださいますように。南スーダン、ナイジェリア、カメルーンの指導者が、着手したばかりの兄弟愛と対話の歩みをさらに進められるよう励ましてくださいますように。

御父の永遠のみことばが、新型コロナウイルス感染による被害が著しいアメリカ大陸の希望の源となってくださいますように。多くの場合、汚職や麻薬取引により悪化している他の多くの苦しみも、それによりさらに深刻になっています。チリの社会的な緊迫状態を和らげ、ベネズエラの人々の苦しみを終わらせてくださいますように。

南アジア、とくにフィリピンとベトナムで台風の犠牲となったすべての人を、天の王なるかたが守ってくださいますように。度重なる台風のために洪水が起き、人命が奪われ、そこに居住している家族がはかり知れない被害を受けていますが、それと同時に、環境と地域経済にも損害が生じています。

アジアのことを思うとき、ロヒンギヤの人々のことを忘れるわけにはいきません。貧しい人の間に貧しくお生まれになったイエスが、苦しみの中の希望を彼らに与えてくださいますように。

親愛なる兄弟姉妹の皆さん、
「ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた」（イザヤ9・5）。わたしたちを救うために来られました。そして、究極のことばは痛みと悪ではないと、告げておられます。暴力と不正義に甘んじて従うことは、降誕祭の喜びと希望を拒否することです。

わたしがこの祭日にとりわけ考えるのは、希望をもたらすために、苦しんでいる人を慰め、助けるために、さらには孤独な

人に寄り添うために、逆境に屈せずに尽力している人々のことです。

イエスは馬小屋で生まれ、おとめマリアと聖ヨセフの愛に包まれておられます。神のみ子は、人間としてお生まれになることにより、家族愛を聖なるものとしてくださいました。わたしは今、家族の方々のことを考えています。今日、ともに集えない家族、家に閉じこもらざるをえない家族のこ

とを。すべての人にとってこの降誕祭が、いのちと信仰のゆりかごとして、受容する愛の場、対話の場、ゆるしの場、兄弟愛に根差した連帯の場、分かち合う喜びの場、全人類の平和の源として、家族のこを見直す機会となりますように。

皆さん、クリスマスおめでとうございませう。

大阪司教の新型コロナウイルス感染症にともなう措置（第10次）を受けて

1月7日に大阪府や兵庫県に緊急事態宣言（2月7日まで）が出されたのに応じて、13日には大司教前田万葉様はコロナ感染症にともなう措置（第10次）文書を教区のみなさん宛てに送られました。その要点は以下の3つです。緊急事態宣言期間の公開ミサを継続するが、①教会にとって主日のミサは、不要不急の集まりではなく必要なことであることを思い出してください、②主日のミサにあずかる義務は免除されるがミサに出席するかどうかは各自で判断されたい、③ミサ以外の集まりは、緊急事態宣言が発令されている大阪府と兵庫県内の小教区においては、期間中は基本的に中止または延期してください。どうしても必要な場合は、少人数に限ること、飲食をしないことなど感染防止対策を徹底して行ってください。

池田教会の主日ミサは同月9日（土）と10日（日）からこれまで通り3回に分けて行われています。しかし、教会における各種の集会については個別に中止または延期が検討されていることを評議会議長から

伺っています。

12月の定例評議会において審議された御受難修道会300年記念の四旬節黙想会（指導は稲葉善章司祭）は従来の形式の実施が困難とし、ゆるしの秘跡の実施も含めて3月における実施法を稲葉司祭と研修委員会で検討中である。また、2月14日の定例評議会をどのように開催するのか、メールによる開催への切り替えなども検討されています。既に教会の受付は無人化され、聖書百週間は休会となっています。

一方、公開主日ミサが継続されているので、それを支える典礼委員会や財務委員会などのかなりの通常業務が教会のエッセンシャル・ワークとして感染防止により一層の注意をもって継続されているように思われます。また、昨年末に誕生したロザリオ・サークルに見られるようにオンラインや通信文を用いた交わり会が工夫され、教会メンバーが孤立化しかねないピンチを逆に相互理解を深めるチャンスとする機会となることを祈っています。

2月のガラスケースのみことば
赦しなさい。そうすれば
あなたがたも 赦される

ルカ 6・37

(福音宣教委員会撰)

澆刺と新成人6名が誕生

1月3日にノノイ司祭が祝福

1月3日10時半の主日ミサに於いてノノイ神父によって2021年の新成人の方々に祝福が与えられた。成人となった4名はミサ後に明るく、飾ることない挨拶を返した。2日夕と3日8時半の主日ミサに与った方がたのために挨拶文を後日戴きました。

Kさんの挨拶：物心ついた頃から池田教会に通っている私が、成人の節目を迎えました。自分自身まだ大人になりきれていない部分が多くあると感じております。将来の夢と語れるほど大層な夢は持ち合わせておりませんが、太陽のように明るく暖かい人になればと思っています。

Yさんの挨拶：看護学校に通っていま

す。看護師になれるように学業に専念して頑張りたいと思います。

Hさんの挨拶：今、大学生です。はっきりとした夢は、決まっていませんが、ちゃんとした大人になれるように頑張ります。

Sさんの挨拶：僕がもう二十歳だということに驚かれる方も多いと思います。この前まで教会内で遊び回っていたので。実感としても、まだまだ大人になったとは思えません。子供のように遊べなくなったらつまらないうらなうと感じます。なので、これから生きていく上でこの「遊び心・子供心」は一つ大切にしたいことです。「子供心」は忘れずに、でも「ガキやな」とは言われないうような節度は持った大人になればいいかなと考えています。

みんなの談話室

古代高速道路の光と陰

直

幅は6メートルから30メートルもあったという。全長は6300キロ。南は薩摩大隅から西は肥前巻岐を通過して対馬に至り、東は信濃越後をこえて出羽陸奥にまで達したとか。都がまだ飛鳥にあった7世紀なかば以降、日本国中に張りめぐらされた古代幹線道路「駅路」（えきろ）のスペックである。1966年に計画された高速道路網が6500キロというから、1300年前におなじものが実現していたことになる。「駅路建設は（ときの）天武天皇による列島改造であった」（近江俊秀『古代道路の謎』）

672年「壬申の乱」勃発。天智天皇の弟大海人皇子（おおあまのみこ）が、天智の子大友皇子を破る。皇位継承をめぐる古代最大の内乱は大海人の勝利におわった。天武天皇として即位した彼は律令体制を完成させ絶対天皇制に基づく国づくりを進めた。戸籍を完備させて国民一人一人を把握支配、天皇を頂点とする階

級ピラミッド型日本国のできあがり。

当時の最新技術で建設された駅路は治安維持に備えて軍隊の移動を容易にし、都からの通達を全国津々浦々にすばやく届けるためだった。使者は20キロごとに置かれた駅舎で馬を乗り換え、一日160キロを走破するよう命じられていた。律令国家のシンボルとして、日本国の支配者たる天皇の威光を下々にまで知らしめたのである。絶対天皇制国家の標識、いわば表看板だった。だが裏に回ると、駅路建設とその維持をはじめとする公共土木事業負担に泣いた無数の国民がいた。納税（庸[ヨウ]・調[チヨウ]）のために庶民がこの道路を行き来した、という。故郷から奈良の都まで、納税者自身が国司に引率されて都にのぼることを命じられた。旅の費用は自前、帰路に病をえて野垂れ死に同然の人生を終えた人も少なくなかった。まさにこれを苛政という。大多数の国民に

とって駅路は自分たちを苦しめるウドの大木同然だっただろう。

駅路の光と影は国の在り方について考えさせる。国栄えて民滅ぶ。民を犠牲にした国家繁栄はありえない。駅路はやがて10世紀半ばには天皇制の弱体化、公地公民制の崩壊とともに縮小し、あるいは姿を消した。国民の支持を欠く政治は永続しない。律令体制下の祭政一致を謳い文句に維新をスタートさせ、その後順調に近代化を遂げたはずの大日本帝国は19

45年に崩壊した。絶対天皇制の表看板はなくなった。わずか75年前のことではあるが……

時は移った。今年も総選挙。福祉国家の表看板をかかげる2021年日本国の進路はどう決まるのだろう。主権在民。一億三千万の国民は、憲法が謳うように自由選挙によってみずからの意思を政治に反映できるはずである。駅路のようなウドの大木を繰り返さないようにしたい。

コロナ禍の下でのクリスマスミサ

パウロ

2020年5月に緊急事態宣言が解除された後、教会も万全の感染対策をとってミサを再開しました。しかし、わたしは家庭の事情もあってなかなかミサに出られず、心の中にモヤモヤしたものが溜まっていく日々を過ごしていました。そうこうしているうちに待降節となり、主の降誕のミサのお知らせをいただきました。今年は「三密」を避けるために、24日の夜半のミサは19時と21時の2回に分けて行われるとのことでした。私にとっては夜遅い時間の方がむしろ都合が良いため、21時のミサなら出られそうだと久しぶりに教会に足を運びました。

聖堂には例年のクリスマスのような賑やかさはなかったものの、安全なディスタンスを確保した上で少なからぬ信徒の方々が出席されていました。可能な限り接触を避けるためか、キャンドルも電池式のランプのようなものが使われ、委員の方の苦心がうかがわれます。すでに平時の主日ミサもそう

なっていますが、入祭の歌や賛歌も省略され、静かに詞を読み上げるだけになっており、コロナ禍の下でのクリスマスであることを改めて意識させられました。

このように寂しさも感じさせる主の降誕夜半のミサでしたが、静かな中でクリスマスの本義を省みるまたとない機会ともなっただと思います。「キリストが千回ベツレヘムに生まれても、あなたの中に生まれなければ、永遠に無意味である」(シレジウス)。例年であれば、キリスト教徒でなくとも楽しみにしているクリスマスですが、今年はそんな雰囲気とはかけ離れた中で懸命に働いている医療従事者やエッセンシャル・ワーカーの人々のことが思われます。そうした人々のために祈りました。

久しぶりにミサに出ることで心の中のモヤモヤも晴れ、健やかな気持ちで教会を後にしました。

今月の表紙絵について

2月5日は長崎26聖人の記念日である。表紙の絵は「フランシスコ会修道士の殉教」と名付けられた油彩画で、長崎の大殉教を描いている。フランチェスコ・マッフェイ（1605～1660）の作品。ヴェニス美術館のコレクションである。

1597年2月5日の長崎の殉教は、豊臣秀吉がフランシスコ会の方針に不信感を抱いたのが、きっかけのひとつになっていたといわれている。長崎で殉教したのはペトロ・バプチスタ司祭をはじめフランシスコ会会員が7名、日本人信徒14名、イエズス会関係者3名、それに修道士たちの世話をした日本人信徒2名の26人である。殉教の知らせは、ルイス・フロイスの報告書などによっていちやくローマへ伝わった。メキシコでも同年の12月には事件の記述がすでにあり、翌年には各地へ分けられた遺骸の一部が到着している。それは悲しむべきニュースであり、とくにフランシスコ会は衝撃を受けた。そのいっぽうで日本宣教の使命感をますます燃え上がらせる事件であったのだろう。26人は1627年に列福されている。マッフェイは日本での殉教の状況を想像して、劇的なシーンを描いた。

2月の年間行事予定の変更

- 2/06 アルファ・コース中止。
- 2/13 ドレミの会中止。
- 2/20 中高生のお泊まり会中止。
- 2/20 アルファ・コース中止。
- 2/21 食物の奉獻中止。
- 2/27 子どものお泊まり会中止。
- 2/28 大人の日曜学校・研修委員会中止。
- 2/28 子どもと共に捧げるミサ中止。

黙想会のお知らせ

宝塚黙想の家

■ 日帰り黙想会 10:00～15:30

2月9日（火）

指導：稲葉 善章 神父

2月25日（木）

指導：染野 治雄 神父

2月26日（金）

指導：山内 十束 神父



■ 一泊黙想会

2月9日（火）17:00～10日（水）15:30

指導：稲葉 善章 神父

2月27日（土）17:00～28日（日）15:30

指導：染野 治雄 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

編集後記

昨年から今年にかけてコロナ禍一色、とりわけ「緊急事態宣言」もなんだかなあと、思っているアタタ。

そこで、古来伝承にあやかってみては如何でしょうか。2月2日は『節分』です、「鬼は外福は内」と言い、（今年は静かに小さな声で）みんなが健康で過ごせますようにと願いを込め、大豆を撒きましょう。悪いものを「鬼」と呼び、大豆には豊富な栄養があるので、そのパワーで追い出します。鬼が嫌いな、鰯を焼きながらどうぞ。

新型コロナウイルス感染症から変異も発生している為、あなどれない状況が続いています。今一度、感染の意識を高める必要があると思われます。

天使の微笑